SAAJ 日本システム監査人協会報

第６回総会開催

去る２月２５日、東京都江東区豊洲の日本ユニシス株式会社本社に於て、日本システム監査人協会の第６回総会が開催された。

出席会員６５名、委任状２５０名で総会が成立。橘和理事を議長に選出。川野会長が事業概況及び事業計画概要を報告説明。黒熊理事が決算及び予算案の報告説明、藤田監事から監査報告。最後に第６期役員選出があり、いづれも可決承認された。法人部会が作成したシステム監査人倫理規定案について、梅津理事が主旨内容を説明。活発な質疑応答の後、一部文言を修正することで承認を得た。制定されたシステム監査人倫理規定の全文は次葉に掲載。

総会に先だって、記念行事として事例研究分科会の模擬監査に関するパネルディスカッションが行われた。ご存じのように、昨年１２月に事例研究分科会の活動成果として、東京電気大学出版局から『システム監査の基礎と実際』が刊行された。この出版の経緯、本の内容、昨年度の模擬監査の具体的事例発表、事例研活動の裏話などについて、鈴木事務局長をコーディネーターに、事例研究分科会の蓮見会員、鈴木（実）会員、右田会員、梅津会員をパネラーに意見がかわされた。

当日は、来賓として、会場を提供していただいた日本ユニシス株式会社のシステム技術本部システム化推進部の松田部長、日本公認会計士協会システム担当小林常務理事、東京電気大学出版局の植村氏のご出席、ご挨拶をいただいた。

創立以来、事務局長として本協会の運営に多大なご尽力をいただいた鈴木理事をはじめ、吉川理事、中谷理事、武田監事が本総会をもって退任されました。長い間ありがとうございました。紙面をかりて、心からの謝意を表します。

総会終了後、２９階からの夜景の美しい同社ラウンジで懇親会を開催。全国の会員の年１回の歓談は、夜の更けるまで続いた。

お知らせ

総会、記念行事、懇親会のビデオが事務局、各支部にあります。

当協会事務局のファクシミリ番号が６月１日から変更になります。

新しいファクシミリ番号

０３－３３４３－５５７３

システム監査人倫理規定

（目的）
第１条　この規定は、システム監査に携わる日本システム監査人協会会員（以下「システム監査人」という。）が最低限遵守すべき職業倫理の規範を定めることを目的とする。

（使命）
第２条　システム監査人は、情報システムの信頼性・安全性・効率性を高めるため、その専門的知識と経験に基づき誠実に業務を行い、情報化社会の健全な発展に寄与することを使命とする。

（責務）
第３条　システム監査人は、情報システムを総合的かつ客観的に点検・評価し、関係者に助言・勧告するものとする。

（監査基準・手続）
第４条　システム監査人は、システム監査の基準、手続きを明らかにし、それに基づき、システム監査を行わなければならない。

（守秘義務）
第５条　システム監査人は、正当な理由なく業務の遂行に伴い知り得た情報を他に漏洩し、または窃用してはならない。

（独立性）
第６条　システム監査人は、つねに独立の立場を堅持しつつ、適切な注意と判断によって業務を遂行し、特定人の要求に迎合するようなことがあってはならない。

（公正不偏）
第７条　システム監査人は、業務を誠実に果たし、常に公正不偏の態度を保持しなければならない。

（社会的信頼の保持）
第８条　システム監査人は、自らの使命の重要性に鑑み、高い社会的信頼を保持するよう努めなければならない。

（名誉と信義）
第９条　システム監査人は、深い教養と高い品性の保持に努め、システム監査人としての名誉を重んじ、いやしくも信義にもとるような行為をしてはならない。

（会員間の規律）
第10条　システム監査人は、みだりに他のシステム監査人を誹謗し、名誉を傷つける等の行為をしてはならない。

（自己研鑽）
第11条　システム監査人は、システム監査を行うのに必要な専門能力および監査技術の向上に努めなければならない。

（規定の改廃）
第12条　この規定の改廃は、総会の承認を得なければならない。

『付則』
　この規定は、平成５年２月２５日から施行する。

第５期収支計算書

自　平成４年　１月　１日
至　平成４年１２月３１日

（単位：円）

科　目	予算額	決算額
収入の部		
会費収入	5,000,000	4,901,660
研究会収入	500,000	345,000
その他収入	150,000	7,334
支部収入	553,932	553,932
前期繰越	3,417,730	3,417,730
合　計	9,621,662	9,225,656
支出の部		
運営研究会費	1,500,000	793,411
会報費	700,000	1,577,991
総会費	500,000	393,440
会議費	150,000	160,732
広告宣伝費	350,000	203,569
旅費交通費	600,000	446,120
通信費	350,000	293,813
諸会費	100,000	24,000
事務用品費	70,000	76,870
事業費	300,000	0
広報費	800,000	84,380
雑費	200,000	191,014
事務所運営費	-	1,474,918
支部費用	-	1,051,243
合　計	5,620,000	6,771,501
次期繰越	3,447,730	2,454,155

第６期収支予算書

自　平成５月　１月　１日
至　平成５年１２月３１日

科　目	予算額	摘　要
収入の部		
会費収入	5,500,000	
研究会収入	960,000	８回
その他収入	650,000	書籍印税等
支部収入	560,000	
前期繰越	2,454,155	
合　計	10,124,155	
支出の部		
分科会費	500,000	
月例研究会費	960,000	８回
会報費	1,600,000	６回
総会費	300,000	
会議費	100,000	
広告宣伝費	210,000	
旅費交通費	400,000	
通信費	350,000	
諸会費	30,000	
事務用品費	80,000	
事業費	510,000	
広報費	200,000	
雑費	200,000	
事務所運営費	1,100,000	
支部費用	1,100,000	
合　計	7,640,000	
次期繰越	2,484,155	

第６期事業計画概要

（１）基本計画

・システム監査をビジネスとして定着させるための具体的な基盤づくり

・個々の企業では出来ないシステム監査領域を特定し、そのノウハウを培う。

（２）業界団体としての認知を得るための方策

・倫理規定の発布とＰＲ

システム監査人の職業倫理の確立

・会員数の増加

入りやすい環境づくり

・登録企業へのアンケート

・関係団体との連携強化

ＥＤＰＡＡ、システム監査学会、セキュリティーマネジメント学会、ＪＩＰＤＥＣ

（３）支部分科会活動計画

１．システム監査事例分科会

ａ　模擬システム監査

・Ｅ社　　１～５月

・Ｋ社　　３～８月

・その他２社程度予定

ｂ　実施済み模擬システム監査資料の整理

２．システム監査技法分科会

ＳＡＣレポートの研究

３．セキュリティー分科会

パソコンシステムのコンティンジェンシープラン

研究会報告

- 第22回 -

志田藤一氏「パソコン分散処理による大型機情報システムの再構築」

No.354 矢田夏彦

去る１月２２日（金）、東京・虎ノ門の琴平会館ビル２階の監査法人トーマツ会議室において、第２２回研究会が開催された。

今回は、日本フルハーフ（株）情報システム部長の志田藤一氏を講師にお迎えし、「パソコン分散処理による大型機情報処理システムの再構築」と題して同社におけるメインフレームからパソコンへのダウンサイジング事例についてお話いただいた。

＜講演内容＞

日本フルハーフ（株）は、大型汎用コンピュータで構築されていた社内情報システムを再構築してパソコンへの分散化を進めた結果、大型機を撤去するまでに到った。

この再構築のひとつの目的は、「システム硬直化サイクルから脱出する。」ということであった。汎用機の継続的な使用は、大型モデル機への買換えを、プログラム互換を保証しながら繰り返すことになる。その結果機械は新品だがプログラムは中古でパッチだらけの硬直したシステムが生まれてしまう。そこからの脱出を汎用機を使用しないことで目指したのであった。

もうひとつの目的は、「ＣＩＭからＨＩＭへのパラダイムシフト」である。ＣＩＭ（Computer Integrated Management ）とは、コンピュータを中心として、組織の中を電子化した情報が血液のように循環して企業活動を支えているという、従来からのシステムの考え方である。しかし、現実の企業活動は、もっと柔らかな人間

関係を中心としたコミュニケーションに基づいて維持されているために、システムで扱う情報との二重化、乖離の拡大という問題が生じる。そこで、ＨＩＭ(Human Integrated Management)という、人間関係を重視する考え方に思考を変えて、その活動をシステムによって支援するというアプローチで再構築に取り組むこととした。

いったん、システム再構築に着手すると、その効果は当初の予想以上であった。第一の効果は、大量データの分散化である。各部門のＰＣにおいて業務処理を行うことにより、管理すべき情報が明確になり、部門間を跨がるデータ量が少なくなった結果、大量のデータもすべて各部門のＰＣに収まってしまった。第二の効果は、情報処理リードタイムの短縮である。ユーザーが作業や思考を中断されることなく、自分自身でスケジュールを組んで運用できるシステムは効率が良く好評であった。第三の効果は、開発リードタイムの短縮である。業務の改善を図りつつ、現在必要なシステムを部分的に開発する方法は、全体の工程を進めていく従来型の開発手法よりも短期間で効率的な開発を可能とした。

現在、同社では、各部門でパソコンＳＥを養成して、パソコン導入と運用のリーダー役に当たらせている。情報システム部門は、再構築の第二弾としてサーバーを使ったパソコンネットワークシステムの導入を計画しており、ここに、大型機時代のＤＢ／ＤＣの技術が生きてくると確信している。

このような、再構築を進めるにあたって、情報システム部門は以下の課題を克服する必要がある。1. 技術者のやりがいの喪失 2. ＭＳ－ＤＯＳの世界への抵抗 3. 汎用機メーカーの頼りなさ 4. システムインテグレーターとしての役割の難しさ 5. 開発言語の選択の難しさ

＜所感＞

今回の事例の特徴的なことは、「自分の会社にとって本当に役立つシステムは何か」を新たな方向性から徹底的に追求した結果としての、パソコンへの完全分散化の選択だったことである。これに比べて、一般的なダウンサイジングでは、始めからコストダウンを狙ってしまって困難に陥っている例が多いと聞く。この種の再構築を成功に導くための有効なアプローチとして、非常に参考になる話だった。

今後の研究会の予定

第２４回
５月２６日（水）
テーマ
「オープンシステムと最新技術動向」
講師
日本ユニシス（株）
オープンシステムサービス本部
ＳＩサポートセンター第一課課長
梶　亨三郎氏

第２５回
６月２５日（金）
テーマ
「オンラインネットワークシステムとシステム監査」
講師
ＮＴＴデータ通信（株）
考査室担当部長
相川正克氏

会員企業紹介

（株）さくら総合研究所

銀行系シンクタンク

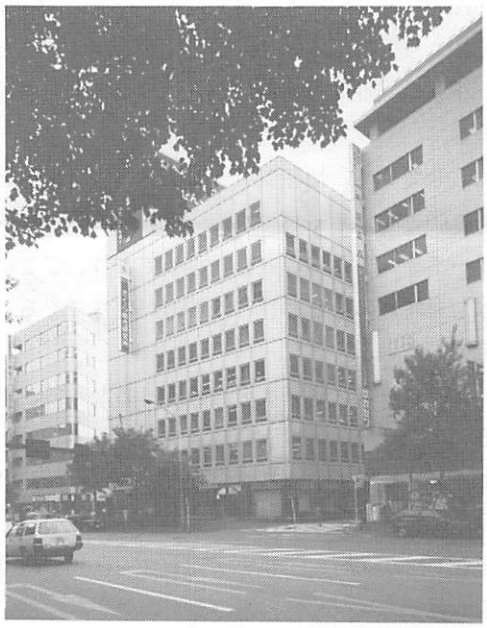
さくら総合研究所は、昭和６１年に（株）三銀経営センターの事業を継承して設立された(株)三井銀総合研究所と、翌昭和６２年、旧太陽神戸銀行の経営相談所の事業を継承して設立された（株）太陽神戸総合研究所が、平成３年４月に合併して（株）太陽神戸三井総合研究所として誕生した。昨年４月、現在のさくら総合研究所に社名変更し、銀行と同じさくらのシンボルマークのもと、地球全体を視野に入れた高い視点からの調査活動から企業経営に密着したコンサルティング活動まで幅広い事業を行っている。平成５年４月現在、資本金１０億円。従業員約２４０名。平成４年３月期の売上約４４億円、平成５年３月期の見込み約４５億円。本社は東京都新宿区。東京、神戸、大阪を拠点に事業を展開している。

５本柱の事業展開

さくら総合研究所の事業は、「調査」、「環太平洋研究」、「開発研究」、「コンサルティング」、「会員事業」の５つの部門で構成されている。銀行の調査部の伝統を受け継ぐ「調査」部門は、マクロの国内国外の経済調査を中心に金融調査、産業調査、社会調査、地域調査まで広く深く調査・分析、問題提起を行っている。「環太平洋研究」部門は環太平洋研究センターとして、アジアを中心とした９カ国１２の研究所と提携し、ＥＣ、ＮＡＦＴＡに次ぐ、第三の経済ブロック［環太平洋地域］の調査・研究と情報提供を行っている。「地域開発」部門は、都市開発、地域開発、地域振興のための基本計画の策定、関連基礎調査等を行っている。「コンサルティング」部門は経営コンサルティング部門、システムコンサルティング部門及び、経営戦略システム部門に分かれ、相互に連携して活動を展開している。さくら総合研究所は、全国約３万社のさくら総研会員を擁しており、「会員事業」として、講演会、異業種交流、社員研修ほか各種相談業務を行っている。

採算のとれるシステム監査

さくら総合研究所のシステムコンサルティング部門は総勢３５名。この陣容で情報システム化計画の立案からプロジェクト管理、開発運用の支援、さらには要員教育からシステム監査まで少数精鋭で八面六臂の大活躍である。システム監査技術者試験合格者は約１０名いるが、システム監査に専従しているわけではない。システム監査は、銀行の取引先企業のシステムの再



構築、ダウンサイジング等に関するコンサルティングの一環として、現状のシステムの評価という視点から実施するケースが多い。台帳登録企業のなかで外部監査としてのシステム監査を採算ベースに乗せている企業はまだ数えるほどだが、さくら総合研究所は、年間１０社程度の実績があり、他のコンサルティング業務同様採算がとれているとのこと。このリセッションのなかで、システムコンサルティングは、年率２割で成長中である。銀行の営業活動の一環として、案件が持ち込まれること等を考えると、他の企業とは、かなり経営環境が異なるといえる。しかし、システム監査の実施に関して、顧客と銀行の双方に独立の第三者としての責任を負わなければならない立場にあり、また双方にやってよかったと思われる成果をあげなければならない難しさがあるだろう。システム監査の守備範囲は広いが、現在のような経済局面では、経営者の関心は、特に情報システムの効率性や有効性に向けられている。さくら総合研究所のシステム監査の得意とするところはまさにこの点であり、蓄積された高度のノウハウと丁寧な対応で、多くの企業経営者の支持を得て、システム監査の裾野を広げている。情報システム業界には、逆風が吹いている。この時こそ、顧客の立場に立ったシステム監査が必要とされている時なのではないだろうか。

日本システム監査人協会に何ができるか

取材の最後に、企業会員として日本システム監査人協会に望むことをうかがったところ、「現状では特別な期待を持っていない。」という厳しい答えが返ってきた。システム監査学会その他の団体との明確な棲み分けができていない状態で日本システム監査人協会に一体何が出来るのか。という鋭い問いかけである。日本システム監査人協会は、有資格者の実務家の集まりであるところに特色があり、実務家の立場で監査実務能力の維持向上をはかり、システム監査の社会認知に務め、信頼されるシステム監査が社会に根付くよう活動していくのが使命だと思っている。それにしても、確かに会員にフィードバックできるものが少ないと思う。さくら総合研究所では、前述した通り講演会、交流会、相談業務等充実した会員サービスを行っている。会員数も、財政基盤も桁違いの日本システム監査人協会とさくら総合研究所は比べるべくもないが、会員サービスの面でも、もっともっと会員に貢献できる協会になるよう努力する必要があるだろう。会報を担当するものとしては、特に機関誌（会員のための総合誌）月刊『さくらあい』の充実に目を見張った。Ａ４判５０頁程で、要領よくまとめられた事例紹介や、作家童門冬二氏の連載など「おもしろくてためになる」冊子である。「今は野に咲く桜草（冗談、ほんの雑草です）だけど、いつかはなろうさくらあい」と心に誓って筆を置く。

（取材にあたっては、（株）さくら総合研究所のシステムコンサルティング部、部長高島輝久氏と上席主任研究員富岡芳文氏のご協力をいただきました。）

（No.41 今井純子）

システム監査人日誌

- 第4回 -

No.39 川野佳範

平成4年1月28日火曜日

リフレッシュ・ルームで昼食を取り終わったとき、監査室の力久氏が金歯数本をのぞかせ少しこわばった作り笑顔で私たちの傍らに近づいてきた。そして「先生、社長がみなさんにご挨拶したいとのことです。ご足労でも社長室まで来ていただけますか？」とささやくように願い出てきた。「もちろん結構ですよ。私どもこそ挨拶が遅れて申し訳ありません。」

こちらこそ先に申し出るべきであったのに"しまったな"という気持ちを胸に、力久氏の後ろに従って9階の社長室へ。社長室の前には、すでに社長室長が私たちを直立不動の姿勢で待っていた。深々と頭を下げたのち、社長室の重厚な扉を静かに開け私たちを招き入れた。9階の役員室フロアー全体の静厳さと重厚さが過度の緊張感を誘う。"社長ってどんな人だろうか？"リフレッシュ・ルームで写真の姿は見ているものの興味が湧く。

広い社長室の奥まった中央に丸顔でどっしりとした社長の姿があった。頭をあげた瞬間いつも見慣れている普通の実業家とはどこか違う感じを受けた。どこが違うかと思ってもう一度社長の方へ目を向けた。リフレッシュ・ルームにあった写真とは異なり、頭は坊主頭、背広を着た上にこれも袈裟と言うのであろうか、家紋が浮かび上がった黄金色のレイを首に掛け、数珠を手にしていた。

「どうぞお掛け下さい。」と言いつつ、自らも応接セットのソファーに深々と座った。その顔は柔和であるがどことなく眼光が鋭く少々威圧感を受ける。

「わざわざ東京から来て頂きまして恐縮です。」静かでどっしりした感じである。

「はじめまして、私トーマツの川野です。よろしくお願いします。・・・こちらが藤田です。そして・・・こちらが山内です。どうぞよろしくお願い申し上げます。」

「この度は、はからずもシステム監査のご依頼賜りまして誠に有難うございます。」

「しっかり監査して下さい。とにかく、私どもはかなりの額の資金を情報システムに投資していますし、事業の遂行のうえからも情報システムは頗る重要であると考えております。・・・実は、わたくし約半年前に、伊豆高原にある日本コンピュータサービス（株）の研修センターで開催されたエグゼクティブ・セミナーに参加しましてシステム監査の話を聞きました。わたくしは、コンピュータのことについては素人で良く解りませんが、話を聞きまして、わたくしどもの会社でもやる必要があると思ったのです。わたくしどもの会社では、力久が内部監査を担当しているのですが、力久もコンピュータに関しては素人でシステム監査はやったこともないし、やる能力もありません。・・・今回の件は、たまたま、会計監査の報告会の席で川北先生に相談したところ、トーマツさんにシステム監査部があると聞いたものですから、お願いした次第です。先ほど申し上げましたとおり、わたくしどもシステム監査に関する知識もありませんので監査の内容、手順等については情報システム部門の飯塚などと十分打ち合わせて頂き、先生方がイニシアティブをとって行って下さい。ただひとつ私のほうからお願いしたいことは、これはシステム監査の仕事から外れるかも知れませんが当社のアウトソーシングの可能性についても検討して頂けないでしょうか。こ

れは、ＮＢＭ社で聞いたことですが、アメリカではコダック社等かなりの会社がこのアウトソーシングを行い成果を上げていると聞いています。何故このようなことを申し上げるかと言いますと、私は、当社は情報システムに金が掛かり過ぎているのではないか、また優秀なＳＥが育っていないのではないかと疑問視しています。したがいまして、アウトソーシングすることによってコスト削減が達成されるのではないかと考えております。また、九州という田舎では優秀なＳＥは少なく、私どものような非公開会社では優秀なＳＥが集まりません。結局こちらが期待するような情報システムは、いつになっても実現できないということになる。このような状況を解決するには、アウトソーシングが最も早い解決策ではないかと私は思うのですが、どうですか？　川野さん。」真剣な眼差しで私の目をしっかりと見据え、そして静かで、ゆっくりした口調で話しかけてくる。話し方にメリハリがあり誠実さが言葉の端々から感じられる。

「一口にアウトソーシングと申しましても、アウトソーシングする範囲、業務の内容によって、いくつかの異なった契約形態がありますので、簡単に結論づけることはできません。十分検討する必要があると思います。特に御社は、情報システムが業務の中核をサポートしており、会社の命運を左右しますのでなお更のことです。何れにしましてもアウトソーシングのメリット、デメリットおよびアウトソーシングを行う場合の可能性や留意点等についてはご報告しましょう。」

「そうして下さい。」

「ちょっとお時間を頂いたついでで恐縮ですが、社長さんの立場から当社の情報システムはどうあるべきとお考えですか？」と夕方インタビューして聞こうと思っていたことに話が移ってしまった。

「私どもの基本計画は、早い時期に株式公開し、コストの安い資金を調達し、そしてお客様に少しでも低い金利で資金提供し満足して頂く。これに尽きます。そのためには、すでにシステム化されている資金管理システムの的確な運用と貸倒れを未然に防止するための必要な顧客情報データベースの充実が必要と考えています。当社の情報システムは経営管理や営業管理に必要な情報がすばやく的確な形式で出力されているとは言えません。また、開発すべき案件が未実施でかなり積み残されており問題が多いと考えています。」

「大変ありがとうございました。」私の口からため息が知らないうちに漏れていた。

話が一区切りついたところで私の視線は、大きな飾り棚に向けられた。そこには黄色に近い夕焼け色が基調となった微妙な色彩の壷が飾られていた。それは、私がたびたび日本伝統工芸展等で見かけた萩では若いが嘱望されている陶芸家、波多野善三氏の作品のように思われた。人間国宝、三輪休雪が老熟でやわらかな白を基調にしているのとは対照的である。その飾り棚にはほかにもいくつかの抹茶茶碗も置かれていた。

「社長、話は変わりますが、その飾り棚に置かれている壷は、もしかしたら萩の波多野善三さんの作品ではないですか？」社長との共通の話題を求め、そんな下心で尋ねてみた。

「あゝ、それですか。・・・そう、それは波多野善三先生の作品です。萩に私どもの支店を開設したとき、当時、福岡国税局の調査査察部長をしていた川嶋清雄さんに薦められて買ったものです。川嶋さんは若いとき萩の税務署長をしていた時期がありまして、その関係で萩焼きには大変詳しかった。川野さんも萩焼きに興味

をお持ちですか？」

「萩焼きは、正直言って良く解りません。ただ、私も萩に友人がいる関係で波多野善三さんを紹介され、何度か波多野さんの窯にも伺っています。そして、東京で個展を開くときには会場に伺って作品を見させて頂いています。」

「そうですか。それは結構なことです。・・・私は、仕事を離れたときは努めて萩焼の器でお茶を静かにいただき、こころを鎮めるようにしております。茶道は、仏の道にも通ずるように思います。罪業おおき私には必要なことです。」とはじめて笑った。

頭を坊主にし、袈裟と数珠を身につけている社長からは、世の人々への奉仕、すなわちそれが事業で、その事業経営に対する磐石の決意が伝わってきた。その時、私は畏敬の念を禁じ得なかった。

社長との面談も終り午後の作業にとりかかった。

藤田さんは、運用担当の大橋さんと汎用監査プログラムであるＳＴＲＡＴＡ適用の作業をすすめた。（株）にこにこクレジットのＯＳはＮＢＭ２２００のＭＶＳでもちろんＳＴＲＡＴＡが導入可能である。汎用監査プログラムを利用する目的は、一般的に 1. レコードの信頼性、完全性、守備一貫性及び正確性の検証、 2. レコードに存在する各種の値の検算と監査人に必要な値の計算、3. 別々のファイルにある同一データの比較、すなわち整合性のチェック、4. 監査用サンプルの抽出、 5. 監査対象データの要約やソート・分析、 6. 監査手続の結果得られたデータと関係するファイルのレコードとの比較、それに基づくデータの真実性検証等がある。今回のシステム監査は初度監査であるため、監査対象を当社のメイン業務であるキャッシングすなわち無担保ローンに絞ることは監査計画段階ですでに決定していた。藤田さんは、無担保ローンのシステムのレビューを行い、監査プログラムの使用ファイルの位置づけを明確にするため、フローチャートの作成に入っている。そして、関連する入力帳票、ファイル・レイアウトやコード一覧表を入手し、開発部門の担当者にデータ項目、桁数及び内容を聴取し、監査調書にまとめている。また、すべてのデータ項目が監査に必要なわけではないので、処理の効率性を高めるため、必要なデータ項目を特定し、監査用ファイルを作成することにした。これはまた、会社のファイルを誤って更新してしまう危険を回避するためでもある。

今回ＳＴＲＡＴＡをシステム監査で利用する目的は、1. 無担保ローンの顧客管理マスターや残高マスターが取引事象を正確に反映しているか、2. 利息計算ロジックが正確であり、特に利息変更時の処理や示談による利息減額処理が適切であるか、3. 利息及び元金返済の延滞管理データが正確であるか、4. 異常なデータがファイルの中に含まれていないか、すなわちマイナス残高等、5. すべての取引データが正しく会計システムにパスされているか、すなわち会計システムとの整合性などの検証である。したがって、準拠性テストより実証性テストに重点を置いた監査計画となっている。

その時、遠くの席から「川野さ～ん、ＣＭＡサンプリングするときのＭＰはいくらにしますか～？」と藤田が席から立ち上がって大きな声で聞いてきた。 （つづく）

＊ＣＭＡサンプリングは、累積金額サンプリングのこと

＊ＭＰは、精度の金額

（この文章は、監査人としての守秘義務を守るため、私の経験を踏まえてフィクションに組み立てています。）

事務局長退任のご挨拶

No.8　鈴木信夫

6年前、第1回合格者というつながりだけで連絡を取り合った有志５０人が、合格者の組織のあり方について、何回か集まり話し合いました。実務家の感覚で運営できる組織が必要という意見が決め手となり、いろいろあった不安や迷いを押し切っての出発でした。

当初、目指していた目標が4つあります。個人会員５００名突破、協会名による著作物刊行、職能（業界）団体としての機能を持つ、事務局の独立です。いずれも、むずかしい要素があり、5年程度で達成できるかどうか確たる見通しはありませんでしたが、おかげさまで、このところ、相次いで実現いたしました。

模擬監査事例の積み上げ、「システム監査のススメ」のまとめなども、会員一体となっての活動の大きな成果といえましょう。

事務局長として、一つだけ心がけたことは、“肉声の伝わる”ような組織体でありたいということでした。入会申込受理後、改めて連絡先に電話しました。顔は存じあげないが、話したことのある会員は何人もおいでで、総会などで声をかけていただいたときは、旧知のようでした。つまらない自慢をさせていただけば、シス監合格者を日本中で一番”知っている”のは、今のところ私です。

法人部会の拡大・充実、支部未結成地方在住会員との連絡をどうとるかなど、今後に残された課題はたくさんありますが、ここまで来た協会の今後の伸展に不安はありません。後任事務局長にも、変わらぬご支援をお願いするとともに、個人会員 1,000人突破など、次の大きな目標に、力をあわせ、挑んでいきたいとおもいます。ありがとうございました。

事務局長就任のご挨拶

No.55 小宮山登志雄

はじめまして、鈴木事務局長の後任として第6期から協会理事に就任させて頂きました小宮山です。

日本システム監査人協会は設立5年にして国内最大規模のシステム監査人の団体になり、その活動も年々活発になっています。

これらは会員のシステム監査に対する情熱と協会役員の努力の成果ではありますが、本来、会員と協会との関係は各個人・法人の事情により多様であるべきであり、一部の会員による協会運営は厳に慎まなければなりません。この点、現在の協会運営に問題はないと確信しておりますが、事務局長就任に際して改めて心すべきことと思っています。

また、情報化社会の健全性を担保する制度としてシステム監査を定着させるためには、実践面だけではなく理論面でもより一層の思索研究が必要と考えます。したがって、理論と実務のバランスを取りながら多様性の維持と熱意の凝縮を図っていきたいと思います。

ボランティアとはいえ、このような心構え・考えで精一杯頑張りますので、率直なご意見を多数お聞かせ下さい。

会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

事務局の引継から1ヶ月余が経ち、責任の重さを痛感しています。これまでの鈴木事務局長のご苦労に感謝したいと思います。長い間本当に有り難うございました。

理事退任のご挨拶

No. 183 吉川 正

鈴木前事務局長のご依頼により、理事をお引受けしてから、はや4年が経ってしまいました。この間、たいしてお役に立てず申し訳なく思っいます。特に最初のころは、勤務先の海外店検査のため、理事会にも半分近く欠席してしまいました。

しかしながら、監査事例分科会（私たちは対外呼称として、勝手に「システム監査事例研究会」と称しています。）を発足させてからは次第に熱が入ってきました。やはり、何か目的を持って具体的な活動をすることが組織を活性化させるためには必要だと感じるようになり、ひいてはそのことがメンバー個人の向上にもつながっていると信じるようになってきました。

ぜひ、皆様も分科会に参加されるなどして、何か具体的に目に見えることを摑むようにされることをお薦めします。もちろん皆さん職場でお忙しくなかなか参加できないこともあると思いますが，できる範囲内で続けられることだと思います。（「継続は力なり」と言います。）

さて、「システム監査」についてはまだまだ色々な考え方もあり、一つの理念や体制が確立されるまでには時間がかかるものと思います。

むしろ、実務面では色々なやり方があってよいのだと思っています。私たちが発刊した「システム監査の基礎と実際」についてもシステム監査のほんの一面しか見ていないと思いますが、こういうことの積み重ねだと思っています。

理事は退任しましたが、今までどおり宜しくお願いします。

理事就任のご挨拶

No. 203 馬場要輔

吉川理事の退任に伴い、後任には金融機関出身者をと言われ、未熟者ながら大役を引受けさせて頂くことになりました。

今から２０数年前（昭和４２年）、何の知識や経験もない私が、弊行（三菱銀行）システム部の前身である事務部に転勤になりプログラムを作り始めたのが腐れ縁となり、以来、銀行員としての仕事より遥かに多くの期間をコンピューター・システムに関係する仕事に携わってきました。（現在はシステム監査室に所属）

「システム開発の仕事に対する検査が必要」なんて言い出したのはいつ頃からであろうか。私の記憶では確か昭和４０年代の終り頃だったと思う。（銀行では第二次オンラインを開発していた頃）今から考えるとその頃のシステム管理者は偉かったと思う。まだ、「ハッカー」とか「ウィルス」ということばは世の中には存在せず、類似語（？）では「バグ」やら「ダウン」という聞いただけでも吐き気をもよおすような言葉が氾濫していた時代である。しかし、「コンピューター犯罪」はこの頃から問題になってきたのであったと思う。犯罪や事故からコンピューター・システムを守る必要がある。先人達はこう考えていたのであろう。

当協会には５００人を超える会員が加盟されているが、監査に関連した仕事をしている人よりも、開発や運用に携わっている会員の方がかなり多いと聞いている。会員に限らず、システムに関係する全ての人達が、安全性・信頼性・効率性に気を配りながら仕事をしているとしたらどんなに素晴らしいことであろうか。

理事就任に当たり、会員の皆様には、夫々の

能力・知識・特技や貴重な経験を、協会行事や研究会への参加という形で提供して頂ければ非常に大きな力となることを期待しております。

理事就任のご挨拶

No.299　安本哲之助
（近畿会会長）

近畿会は、90名の会員で隔月に研究会を開催し、恒例として研究会のあと懇談パーティを開き、会員相互の親睦と情報交換に努めております。もちろん研究会では監査技術向上のための活発な意見交換がなされていますが、その後の懇談パーティの場がそのエネルギーの供給源となっており、おかげさまで大変なごやかに運営されています。

この分野を担当してかれこれ１０年になろうとしていますが、その後の情報システムの急速な普及、発展にくらべて、そのコントロールの役割の一翼を担っているシステム監査はさほど変貌をとげていません。幸いと言うべきでしょうか、情報システムの悲惨な破綻に遭遇することなく今日にいたっているのはお互いに喜ばしいかぎりですが、肥大した情報システムの脆弱性を考えると、このことを本心では素直に喜んではおれない心境です。

1985 年に（財）金融情報システムセンターのシステム監査訪米調査団に参加した際、アメリカの金融機関では開発段階から運用局面までシステム監査が当たり前のこととして定着している姿を目にし、わが国においても10年たてば様変わりしていようと当時は思ったわけですが、大きくは進んでいない現状についていつまでもこのような状況でいいはずはないと悩みもし、また我々の活動がまだ不十分であったと改めて省みている昨今です。

また、先日ニューヨークの「貿易センタービル」で爆破事件がありましたが、アメリカでは公的機関が金融機関に対してＥＤＰ検査も定例的に実施しており、同ビルに入居している邦銀の支店に対してもバックアップセンターの構築が必要であるとの勧告が検査時すでにされており、各行とも対処済でことなきをえたことを考えあわせると適切なシステム監査活動がアメリカでは展開されていたことに敬意を表する次第です。

最近ではソフトウエアも工業製品であるとの認識が広まり、その品質保証となる国際標準規格が我が国にも導入されようかとの動向もあり、この場合品質システムの監査活動が必須となりますが、これと関連してシステム監査活動でのソフト開発の信頼性評価領域にもスポットがあたることになり、今後のシステム監査活動の重要性も一段と増すものと考えられます。

試験合格者も累計2700名を超え、システム監査定着の基盤は着々と整備が進んできました。今日では情報管理のもつ意味の重さが一段と増加し、またシステムコストが経営では軽視できなくなった現状ではシステム監査人に期待されることも多く、当協会が今後益々発展することが切に望まれます。

監事退任のご挨拶

No.14 武田勇蔵

３年間協会の監事を担当させて頂きました武田です。監事の一つの役目である会計監査は、会計担当理事の方が専門家できちょうめんに会

計帳簿を作成されていたので監事として特別申し上げる事項もありませんでした。積極的に理事会に出席し協会の置かれている状況を把握することもなく終り申し訳ないと感じています。

年度末の会計監査を行うなかで会計担当理事の重要性と大変さをつくづく感じ、（他の担当理事の方も大変であると聞いていますが）なるべく多くの方々に各業務を分散し負担を少なくする方向での検討が必要であるように思いました。

監事としては失格であったが、旨い酒を飲みたいために総会に出席しなくとも懇親会には多く出席した。新宿の夜景そして下町にそびえ立つ日本ユニシス本社ビル２９階で夜景を見ながらの酒は格別であった。

システム監査の試験に合格した頃は、一緒に合格した仲間と酒を飲む度に１０年位して仕事になればとよく言っていたものであった。しかし合格当時の意気込みとは裏腹にシステム監査への取り組みが次第に薄れ世の中が本当の意味でシステム監査を必要とする時代の到来になっても到底対応できないようになってしまった。

現在は事例研に参加させていただく程度の学習になってしまい、酒を飲む席は欠く事がほとんどないが、事例研にあまり出席していないのが現在の状況です。

協会の益々の発展と、またすばらしい会場で安くて旨い酒がみなさんと一緒に飲めるのを楽しみにしております。

今後もよろしくお願い致します。

監事就任のご挨拶

No.118　藤森健次

前監事の武田氏より引継をさせていただきました藤森でございます。学校を卒業して２、３年のブランクは有るものの情報システムに関与して既に２０年以上が経ちました。その間ユーザー企業内の汎用機を使った情報システムの構築、運営に様々にタッチさせていただきました。

私がコンピュータに触り始めたのは汎用機とは言ってもＣＰＵメモリーが１６Ｋバイトという、今から思えば玩具のようなものでした。ただＩ／Ｏ関係の処理装置には大容量のデータを扱えるようにカードリーダとか紙テープ装置あるいは磁気テープ装置などが充実していましたからメモリーが１６Ｋバイトしか無くて充分に事務処理の機械化という目的は達していました。

そんな時代のコンピュータ処理のプロセスは単純そのもので現在のような複雑さは無くシステム監査の必要性もそれほど無かったように記憶しています。ところが近年コンピュータの普及が一段落し、コンピュータの性能が飛躍的に向上した結果、処理プロセスの複雑化、人間が関与する部分の最小化が進み、コンピュータの誤謬が企業あるいは社会に与える影響を無視出来なくなってしまいました。そんな事態を認識するにつれ、コンピュータに触っている人間としてシステム監査の重要性に目を向けざるを得ませんでした。

この協会にご厄介になって早５年が経ちました。その間「システム監査事例研究会」での勉強を通じて断片的ではありますがシステム監査とは如何なるものか、どうあるべきか等を学ばせていただきました。

今般監事ということで役目を引き受けさせていただきましたが、私自身もっともっとシステム監査というものを勉強させていただきたいと思っているところです。監事としてはなにかと至らないところもあろうかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

新規入会個人会員

番号	氏名	勤務先・所属	
555	松枝憲司	第一コンピュータサービス	システム部部長
556	市川新悦	羽黒電子	総務課
557	仲厚吉	セコムネット	システムサポートグループ課長
558	伊藤大作	ＰＦＵ関西ソフトウェア	第２システム部
559	矢野和平	日本信託銀行	
560	中山章	エヌケーエクサ	第１ＳＩ事業部
561	日高裕子	アスクプランニングセンター	財務システム部部長
562	森本哲也	日本アイビーエムサービス	情報管理部副部長
563	森井康一	東洋物産	経理部部長補佐
564	丹田啓一	丹田公認会計士事務所	
565	山本敬三	三菱農機	経営企画室
566	上山勝也	オープンシステム研究所	営業部
567	村田和彦	山武ハネウェル	制御機器事業部
568	甲田裕隆	全日空システム企画	システム第１部
569	大野茂樹	ウィルシステムプランニング	
570	森谷和正	トーマツ	監査部門
571	梅里悦康	トーマツ	東京事務所
572	西川承	トーマツ	監査４班
573	広田孝志	ハイマックス	金融システム部
574	岩崎充司	東京コンピュータサービス	経理部
575	伊良子和成	ゼネラル物産	エレクトロニクス事業部
576	四元一弘	ジャパンテクニカルソフトウェア	第４システム部
577	三好隆宏	日本アイビーエム	アウトソーシング事業統括部
578	茨木晴之	電翔	第２システム部
579	田中公雄	ゼンリン	営業開発部副部長
580	福田文雄	富士銀行	システム監査室調査役
581	浅野亮太郎	トーマツ	システム監査部
582	松内秀樹	トーマツ	大阪事務所
583	白井正	トーマツ	新潟事務所
584	前田卓雄	トーマツインフォテック	マネジメントコンサルティング部
585	鈴木宏司	産能コンサルティング	公共サービス部
586	吉田敏晴	三谷コンピュータシステム	ＯＡシステム営業部課長
587	江崎茂富	野村総合研究所	証券システム２部
588	五井孝	東洋情報システム	オープンシステム事業部
589	榎木千昭	センチュリー監査法人	第１部
590	岡崎和典	三谷コンピュータシステム	システム開発事業部
591	津田哲哉	アンダーセンコンサルティング	マネージャー
582	改田義之	不二越	東京支店
593	糸井文彦	富士総合研究所	金融情報システム部部長
594	小林容子	東電ソフトウェア	炉心管理システム部
595	小林芳之	東芝エンジニアリング	情報システム事業部課長
596	中浜明光	トーマツ	監査部代表社員
597	鈴木正明	トーマツ	マネジメントコンサルティング部
598	市村保雄		
599	山本清徳	ソーティス	東亜営業所所長
600	片寄小百合	アンダーセンコンサルティング	
601	肥前泰之	日立コンピュータエンジニアリング	人事教育部
602	小倉道雄	セイコー電子工業	表示体事業部
603	岡宏	東京相和銀行	事務部
604	丹羽章	コスモコンピュータシステムズ	営業部部長

新規入会登録企業会員

番号	企業名	部門・窓口
6006	日本ユニシス㈱	システム化推進部システム監査室　部長　松田貴典

発行所　日本システム監査人協会
発行人　川野　佳範
事務局　〒160 東京都新宿区西新宿３－２－11
新宿三井ビル２号館
㈱産能コンサルティング内
TEL.03(3343)5820　FAX.03(3343)5573
※ご連絡はなるべく郵便または、FAXでお願いします

会報担当（ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで）
波田　直登　ＮＴＴデータ通信㈱
TEL.03(3804)8267　FAX.03(3804)8291
徳武　康雄　富士通㈱
TEL.03(3778)8271　FAX.03(3778)8106
今井　純子　公認会計士今井純子事務所
TEL.03(3992)9381　FAX.03(3992)2450